

倫理 授業 No.6 テーマQ.&A.プリント

1. 今日のテーマ・クエスチョン

プラトンの二元論哲学の内容とは？

2. テーマ・アンサーのキーワードをピックアップ

※教科書P. 33・34の中から見つけよう！

プラトンによれば、人間が目や耳などの感覚によってとらえる現実は、つねに生成と消滅を繰り返す不完全なものである。しかし、人間は理性によって不完全な現実をこえた、永遠の完全な真理を探究することができる。たとえば、私たちが紙に描く三角形は、不完全でゆがんでいるが、そのような図を描けるのは、理性によって完全な三角形の理想の姿をとらえているからである。

プラトンは、理性がとらえるものごとの完全な理想の姿を（ 1 ）と呼んだ。（ 1 ）は、さまざまな現実のものごとの理想的な原型・模範となるものである。世界は感覚がとらえる、変化して消滅していく不完全な（ 2 ）界と、理性がとらえる完全で永遠の理想の世界、つまり（ 1 ）界から成り立つ（ < 3 > 的世界観）。プラトンは、生成と消滅を繰り返す現実の世界をこえて、それらの原型となる永遠の（ 1 ）の世界を探究する（ 4 ）の哲学を説いた。

プラトンは、人間の魂を理性・意志（気概）・欲望の三つの部分にわけ、魂の理想的なあり方を考えた（魂の三分割説）。知恵の徳をそなえた理性が身体に正しい命令をくだし、意志をはげまして勇気の徳をあたえ、欲望を適切にコントロールして節制の徳をあたえる。理性が知恵によって人間としての正しいふるまいを考え、意志が勇気をもってそれを実行し、欲望は暴走しないように節制される。

魂に理性を中心とした調和のとれた正しい秩序が生まれるとき、魂の正しさとしての正義の徳がそなわる。理性が主人となった正しい魂からは正しい行為が生まれるが、その関係が逆転して、欲望がほかの部分の支配するときには不正な行為が生まれる。知恵・勇気・節制・（ 5 ）の四つの徳は、古代ギリシアの四元徳と呼ばれる。

<キーワード記入欄>

- 1 () 2 () 3 ()
4 () 5 ()

3. 今日のテーマ・アンサー（テーマ・クエスチョンの答）確認

※今日のノートに取った内容や2.でピックアップしたキーワードを参考にしよう。

T. Q. 「プラトンの二元論哲学の内容とは？」

T. A.

イデア論の中でプラトンは真実在のイデア界と不完全な〔①〕界を対比させ、人間は肉体に閉じこめられた囚人だと言った。そのため、「私たちの魂はかつてそこに存在した故郷のイデア界を〔②〕し恋慕する」として〔③〕（イデア<真の知>への愛）を説いた。また、この〔③〕の最終的到達地点は、〔④〕のイデアである。

<記入欄>

- ① [] ② [] ③ []
④ []

[] 年 [] H No. [] 氏名 []